

## 学会記事

### 理事会報告②

日本菌学会 2020 年度第 1 回理事会 (Web 会議) 議事録

日時：2020 年 4 月 24 日 (金) 12:00-14:00

出席者 (順不同, 敬称略)：

会長 田中千尋 副会長 矢口貴志

理事：清水公德 (庶務), 伴さやか (庶務), 糟谷大河 (国内集会), 谷口雅仁 (国内集会), 山田明義 (日本菌学会会報編集責任者), 保坂健太郎 (国際集会), 中島千晴 (国際集会 [AMC]), 細矢 剛 (企画・広報・教育・普及), 田中栄爾 (編集委員長), 本橋慶一 (会計)

監事：大和政秀, 稲葉重樹

オブザーバー：折原貴道 (庶務)

#### 会議成立の確認

新型コロナウイルスの感染防止を図り, Zoom を用いた Web 会議形式で実施した. 理事全員が参加により本理事会が成立した (写真).

#### 【報告事項】

##### 1. 庶務関係 (清水・伴 理事)

(1) 2019年度業務・会計監査は、Zoomによるオンライン会議にて大和監事、稲葉監事、網野会計士、田中会長、清水理事、伴理事、本橋理事、近藤氏（勝美印刷）の各氏により監査を行う予定。

(質疑応答)

・監査の日程は？→5月以降。公認会計士から、ウェブ画面上での監査資料確認でも法的には有効であると確認がとれている。

## 2. 国内集会関係（糟谷・谷口 理事）

昨年度の1) 第63回大会（秋田大会）、2) 2019年度菌類観察会（青森フォーレ）について、会議資料（日菌報2020-2; 2019年度第3回理事会議事録を参照）の通り報告がなされた。

(1) 第64回大会（大阪大会）開催中止にかかる対応

・新型コロナウイルス感染症が全国で拡大し、早期の終息が見込めない状況において、感染拡大の防止を図るとともに、学会・大会関係者の安全・安心および健康に最大限配慮するため、大阪大会を中止することとし、4月3日（金）に学会および大会のウェブサイトへ中止のお知らせを掲載し、会員メーリングリストおよび大会参加申込者への中止に関するメール配信を行った。

・講演要旨集は編集中。例年通り後日J-Stageに搭載し、ウェブ上にも公開する予定。費用支払い済みの申込者に発送できるよう準備を進めている。

・講演要旨原稿提出済み、かつ大会参加費用支払い済みの発表は、講演要旨集の発行をもって発表が成立したものと取り扱い、大会参加費用は返金しないこととする。講演を申し込まず、「参加のみ」で申し込んだ者の大会参加費用は、講演要旨集作成・発送費用を除いた一部でも返金ができるか否か、実行委員会で検討している。懇親会費および昼食弁当代は、費用支払い済みの申込者に返金する。

## 3. 国際集会関係（保坂 理事）

昨年度の事業：1) アジア菌学会（AMC）若手研究者への参加助成、2) 第10回食用菌根性きのこに関する国際ワークショップ（IWEMM10）開催援助、3) 日中韓台合同シンポジウム、4) 自然史学会連合主催国際シンポジウムの開催、5) 日台合同菌学シンポジウムの開催について報告があった（日菌報2020-2掲載内容を参照）。

## 4. 企画・広報・教育・普及関係（細矢 理事）

昨年度の普及行事、ニュースレター、ウェブページ、およびその他事項について、会議資料に基づき説明があった（日菌報2020-2掲載内容及び2019年度第4回理事会に準ずる）。

## 5. 編集関係（田中栄爾 理事、山田 理事）

学会誌（Mycoscience・日本菌学会会報；以下、日菌報という）の発行状況と投稿状況について、会議資料に基づき報告された。

(1) Mycoscience の投稿状況

2016年: 受付論文数202報, 受理80報, 却下109報(却下率54%), 取下げ13報。

2017年: 受付論文数179報, 受理58報, 却下113報(却下率63%), 取下げ8報。

2018年: 受付論文数119報, 受理50報, 却下66報(却下率55%), 審査中1報, 取下げ5報。

2019年: 受付論文数121報, 受理30報, 却下73報(却下率60%), 審査中18報。

2020年: 受付論文数59報, 受理7報, 却下32報, 審査中20報(-2020.4.20)。

(質疑応答)

・日菌報の投稿規定について、英語論文の投稿が可能となると、海外からの投稿も想定されると思うが、修正の必要はないか？→2020年5月発行の60(1)に英語論文1編が出版されるので、その後、様子を見て海外からの投稿受付について対応を検討したい。

・Mycoscience と日菌報に掲載される英語論文の間で差別化・IF戦略を練ってゆく必要がある。編集委員長間で壁をつくらず、連携を密にして調整してゆく必要がある。

## 6. 会計関係（本橋理事）

2019年度日本菌学会一般会計決算書の報告がなされた。補足として、雑誌等発送費については、2018年度まではニュースレター印刷費に含められていたが、実状に合わせて新たに費目を立てた。いくつかの誤植の指摘、予算執行の確認を行った。

(コメント)

・大会が中止となり当初の予定通りではないが、監査を総会までに完了できるよう、スケジュールを確認しておく必要がある。会計報告は間違いのないように確認して欲しい。

・収入部門において生じる利益によって（消費税の）徴税対象の判断がなされるため、AMCを一般会計に含めるか会計士との相談を進めている。業務監査の前には結論が出るものと考えている。

## 【審議事項】

### 1. 庶務関係

(1) 本年度事業の概要

日本菌学会64回大会（大阪、ただし新型コロナウイルス感染症拡大により中止決定）、2019年度菌類観察会（八王子）、シンポジウム、講習会、公開講演会の開催、学会誌の発行、各賞授賞者の募集、名誉会員候補者の推挙、

## 功労会員の推薦

(2) 2021-2022 年度代議員，会長・副会長・理事候補者選出選挙

選挙管理委員は，岡根泉氏，清水由巳氏。

(3) 本年度の会議の開催予定  
(コメント)

理事会は例年通りの時期に開催を予定するが，新型コロナウイルスの影響で，この一年は今回のような Web 会議での理事会が中心となると思われる。その点において，試金石的な一年となるだろう。

(4) 名誉会員候補の推挙，各賞候補，功労会員候補の募集について

名誉会員候補の推挙，日本菌学会賞，日本菌学会奨励賞，日本菌学会教育文化賞，日本菌学会平塚賞，日本菌学会会報論文賞の授賞者，および功労会員候補の募集を行う。

(5) 業務委託・会誌の出版など

・前年度に引き続き，勝美印刷に会員管理，出納業務，カード決済，サーバー管理運営等の業務委託を行う。前年度に引き続き，網野誉税務会計事務所に税理士業務，月次顧問業務を委託する。

・来年以降の Mycoscience の出版委託契約の諸業務について，投稿審査システムは J-STAGE (Editorial Manager) を用い，J-STAGE 上で公開する（完全オンラインジャーナル化，ただし，有償でのオンデマンド印刷サービスは残す）。版組みおよび論文のアップロードは業務委託先を入札により決定する。

・来年度からの科研費について，中島理事を中心に申請を進めていただく。

(6) 本年度代議員総会の開催について

代議員総数は 40 名程度であるため，事前に資料を送付し，Zoom でも開催可能である。総会の Web 会議開催の是非について，ネットインフラの整備状況やメール会議の方が良いかなど開催方法について話し合われた。→ Zoom による Web 会議での開催とし，参加できない場合は，例年の総会に倣い，委任状を出すという形式で承認された。

## 2. 国内集会関係

(1) 日本菌学会第 64 回大会（大阪大会）で予定されていた各種講演の代替開催

1) 日本菌学会賞および日本菌学会奨励賞の受賞講演について，講演内容を録画し Web を通して配信してはどうかという提案について，期日や配信方法など議論がされた。表彰式は実施できないが，会長の祝辞を文書で添えて表彰楯を自宅または勤務先へ送るのみとし，また，公開講演会と学術シンポジウムは，機会を改めて実施すると説明された。

(質疑応答)

・受賞講演の Web 配信は賛成だが，YouTube で簡単に公開

できるのか。菌学会 YouTube チャンネルを作るべきではないか。広告収入が入らないよう，広告は表示されないようにする必要がある。

・ウェブ配信の場合，著作権上のトラブルを避ける必要もある。→ 演者 3 名には発表の内諾は得ているが，著作権等の問題については，検討の必要がある。

・学会のウェブサイトは会員限定ページの整備も進んでいないため，6 月までの短い期間で準備をすることは難しいと思われる。今回はパスワードをかけて YouTube に置くなどの方策が無難。今後の整備のきっかけになると思う。→ 菌学会の YouTube チャンネルを作る方向で，関係理事及び大会実行委員会で検討を進めることで了承された。

2) 一般講演（口頭・ポスター）のスライドやポスターを，演者自身が自己の責任でウェブサイトや SNS などに公開することの議論を望む要望が挙がった。実行委員会からは，演者自身の責任で，予定していた発表内容を演者自身が管理するコンテンツ上で公表することは，学会や大会実行委員会が妨げるべきものではなく，むしろ必要に応じて協力すべきものと考えである。発表内容の公開を希望する演者向けに twitter のハッシュタグ「#msjmeeting64」の呼びかけを，大会ウェブサイトなどで案内して良いか。

(質疑応答)

・twitter 発信するのは個人アカウントか，菌学会のアカウントか？→ 個人のアカウントである。

・学生の研究発表など，未発表データの発信を誘発しないよう注意して欲しい。→ 内容の公表は演者自身の責任において行うことを明記する。学生の場合は所属教官の指導を仰ぐなど，未発表データの取扱いについて注意喚起をする。

→ 上記の議論を踏まえうえで実施が承認された。

(2) 2020 年度日本菌学会菌類観察会（八王子フォーレ）における対応方針

新型コロナウイルス感染症が全国で拡大し早期の終息が見込めない状況となり，感染拡大の防止を図るとともに，学会・観察会関係者の安全・安心および健康に最大限配慮するため，八王子フォーレの開催について，開催の中止を決定及び次年度以降の開催について検討された。開催の会告を投稿済みであったが，中止案内に差し替えるなど掲載予定を審議し，原案通りに了承された。

(コメント)

・延期となっても，下見の経費は年度内の経費として処理するのが妥当である。

(3) 日本菌学会第 65 回大会（熊本大会）開催案についても，今後の新型コロナウイルス感染症の拡大状況が見通せず判断ができない要素が多いので，提案のとおり進めて，適宜状況に応じて変更してゆく。2021 年度菌類観察会(フ

オーレ)も同様ながら、八王子フォーレを順延する形で検討を進めたいという旨の説明があり、了承された。

### 3. 国際集会関係

#### (1) 日台合同菌学シンポジウム

2019年度第4回理事会以降に決定した点は、開催可否については6月中に判断し、開催の場合は7月中に募集要項を定めることである。現状の入国制限などを勘案すると、実質的に6月に開催決定は難しいものの、ひとまず6月の総会前に、台湾側と調整し、開催可否について最終判断したい。

### 4. 企画・広報・教育・普及関係

2020年度の普及行事開催について提案がなされた。ただし、行事の開催可否については新型コロナウイルス感染症の影響をみて、その都度判断する旨の説明がなされた。

イベント：教員のための菌類講座(7月)、大学生のための菌類学入門(8月)、中高生のための菌類講座(未定)、微生物生態学会との共催アウトリーチ(11/22)、自然史学会連合主催講演会(12月)における広報、UNITE国際ワークショップ(予定)

ウェブサイト：充実と英文ページの作成、SNS等を通じた情報発信

ニュースレターの発行：例年通り4回を予定。

(質疑応答)

・英文ウェブページについて作成費が10万円計上されているが、本当にその金額でできるのか。Privacy policyの英語版はすでに作成済。以前、移行費用は払っているので、重複支払いにならないように。→英語原稿を担当理事の方で作成し、その英文校閲に充てる予定。不要な出費がかさまないように、留意する。

・例えばフォーレの案内等、全てを英語にする必要はないと思う。→実施に英語ページを作成するのは一部で、その対象はWGで検討済みである。

・昨年度開催できなかった中高生向け講座は、年度をまたいで実施を検討するのか?→しない。中止と捉えている。

### 5. 編集関係

(1) オープンアクセス論文の費用の支出先について、前回理事会の議論点が不明瞭だったこともあり、決定の権限と、支出の正当性をどのように説明するか、過去の事例など改めて論議された。現在2本の菌学会受賞記念の総説論文が投稿されており、62巻からは全論文オープン状態にすることになるが、61巻で出す場合の支出先について話し合われた。

(審議・質疑応答)

・科研費の名目は学会誌の国際化であるため、無理に今

年度中OA化費用に使用せず、来年度以降の整備費に充ててもよい。

・今年度OA化に計上していた160万円(3報分)は有効活用する。掲載対象などを含め検討してゆく。

(2) Mycoscienceの契約更新について、Elsevier社との契約打ち切りの前にウェブサイト等で通知しなければならないため、新しいMycoscienceの投稿規程も準備しないとイケない。編集システムの構築に200万くらいかかる見込みだが、こちらが期待しているものが上がって来るか疑問あり、予算を組む前に詰めの作業を進めたい。

### 6. 会計関係

2020年度予算案はまだ提案されなかったが、2019年度決算案を見ながら、各担当分野における確認を逐次行った。特筆事項はなし。

### 7. 日本産菌類データベース委員会

2020年度は日本産菌類リストを実施する計画で、データベースの維持・更新、およびアルバイト雇用として5万円の予算案が提案され、承認された。

### 8. その他

会長より、メーリングリストの投稿について、現在は庶務を経由して勝美印刷へ配信依頼しているが、各理事が必要と思う諸連絡については、当該理事の責任の下、勝美印刷の担当者に直接ML送信依頼を行えるように変更したいと提案がされ、必要に応じ、事前に内容を相談できる体制があることを確認して承認された。

以上。



写真。Web理事会の画面